

受講生と講師が共演

日本フィルセミナーコンサート開催

8月26日、『第23回つべつ日本フィルセミナーコンサート』(主催 津別町民芸術劇場)が中央公民館で行われました。つべつ日本フィルセミナーは、全国の主にアマチュアオーケストラで活躍する楽器奏者を対象に、日本フィルハーモニー交響楽団の団員が講師となつてパート練習等を指導するもので、三日間のセミナー最終日には受講生と講師が「つべつ日本フィルセミナーオーケストラ」を結成し、ステージで練習の成果を披露します。



コンサートは、津別中学校吹奏楽部による廣瀬勇人作曲「マイホームタウン」のさわやかな演奏で幕開けし、続いてセミナーオーケストラがチャイコフスキー作曲「スラブ行進曲」、ドヴォルザーク作曲「交響曲第8番」を演奏。観客はオーケストラならではの迫力や、美しいハーモニーを楽しみました。

北海道知事が来町 活活の「TSKOOO」を視察

9月2日、高橋はるみ北海道知事が津別町を訪れました。目的は、山上木工(株)が旧活活小中学校の校舎を改修してオープンしたショールーム「TSKOOO(ツクール)」の視察です。

道東での公務の合間を縫つての来町のため、短い滞在時間でしたが、山上専務から現在の取り組みとこれからの事業展開の説明を受けた知事は「道としても、官民一体の取り組みをバックアップしていきたい」と感想を述べていました。



ツクルの椅子に腰かける高橋知事と、製品の説明をする山上専務(向かって右端)。

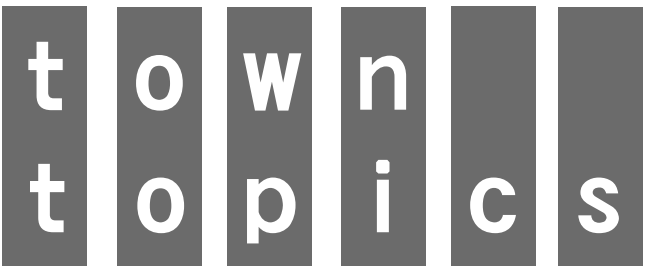
J A 共済から救急車寄贈

津別消防署で受納式が行われました

J A 共済(全国共済農業協同組合連合会)北海道本部から美幌・津別広域事務組合津別消防署に救急車が寄贈され、9月11日、同署で受納式が行われました。式では、目録贈呈等に続き、新しい救急車両の前で、J A つべつ・山下邦昭代表理事組合長から広域事務組合副管理者である佐藤多一町長にマスクットキーを贈呈。佐藤町長は「高齢者を中心に救急出動が増加傾向の中、しっかりとされた機器をいただきありがとうございます」と謝辞を述べました。寄贈された救急車は、救急救命士による高度な処置に必要な資機材を積んだ高規格仕様で、9月14日から稼働しています。



左からJ A 共済・鹿野北見支所長、J A つべつ・山下組合長、佐藤町長、津別消防署・藤田署長



まちのわだい

中央公民館図書室「読書通帳」の運用始まる 津別小学校の児童が記帳しました

9月11日、中央公民館図書室に導入された読書通帳システムの運用が始まり、校外学習の一環で図書室を訪れた津別小学校1年生らの児童が参加して、通帳の贈呈式が行われました。

このシステムは、広報9月号でお知らせしたとおり、図書室で貸し出し中の本に限り、室内に設置された読書通帳機を使って、自分名義の通帳に書名と日付を印字できるもので、読書の記録などに利用できます。図書室を訪れた児童たちは、思い思いに読みたい本を借り、読書通帳機に自分の通帳を入れて記帳していました。



早速、借りた本の記帳をする児童たち

元津別町議の寒河江さんが叙勲

町の振興への尽力に旭日単光章を授賞

元津別町議の寒河江文男さんが、このたび高齢者叙勲を受章しました。寒河江さんは、平成元年から4期16年間、津別町議会議員を務めるなど、地方自治の振興に尽力してきました。



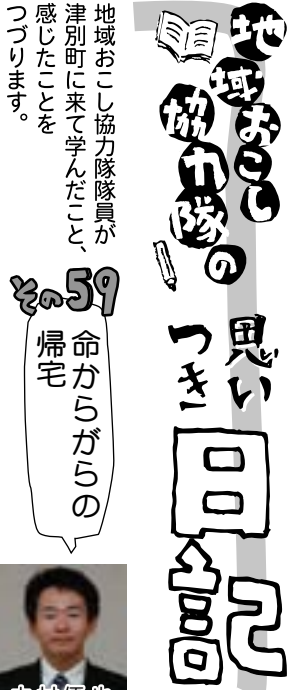
この間、地域の発展に寄

人づくり・まちづくり活動支援事業を活用 「津別ブレイブトライブ」が開催されました

9月2日、津別町人づくり・まちづくり活動支援事業を活用した音楽イベント「津別ブレイブトライブ」が、中央公民館で開催されました。ステージでは、町内や近郊のアマチュアバンドをはじめ、MBAバトン教室や山鳴太鼓保存会なども出演し、会場を盛り上げました。またフードコーナーや緑日コーナーには家族連れが集い、楽しいイベントとなりました。



▲バンドと観客が一体となって盛り上がりました



申村優也

地元は網走です。出かけてまず考えるのは食事場所。美味しいものを求めて探索しています

北海道胆振東部地震の影響で、道内で停電や断水、通信障害など生活に大きく影響する事態となり、皆様大変なお過ごしだったかと思えます。また、大変な状況の中、復旧に携わってくださった方々、営業を再開してくださったお店の方々に感謝しております。タイトルからも分かるかもしれませんが、タイミングの悪いことに地震が起きたのは、札幌のスーパーの中にいたときのことでした。スーパーから出ようとしたところ、両脇にあったシャッターが小刻みに揺れ始め、だんだん揺れが大きくなりました。電気は点滅し、エレベーターは止まったまま開閉を繰り返す、建物自体が揺れるかのよう揺れていました。さらに、慣れない土地ということもあり、どこに逃げればいいのかも分からず、非常に不安でいっぱいでした。少し落ち着いてから徐々に津別へ向かって移動しました。道中も信号がついていないことや、移動している際に地震が来るなど怖いことはありましたが、無事帰宅することができました。北海道ではめったにすることのないような経験で、命があること、電気や食べ物などのありがたさを実感し、今の生活が当たり前ではないことを改めて学びました。